

2023年度 保健師・助産師職能合同企画研修

「周産期の 良好なメンタルヘルスのための支援」 事前調査結果

※調査期間：2023/4/1～4/27

※調査実施依頼：141か所（市町村77，分娩を扱う医療機関36，開業助産院28）

※回答施設：56か所（回答率39.7%）

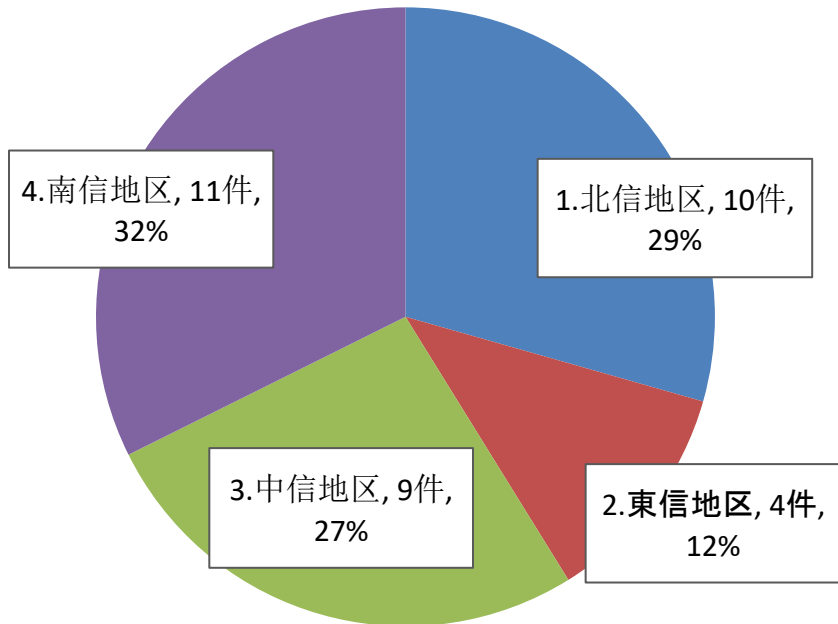
（市町村 34 ，分娩を扱う医療機関19，開業助産院3）



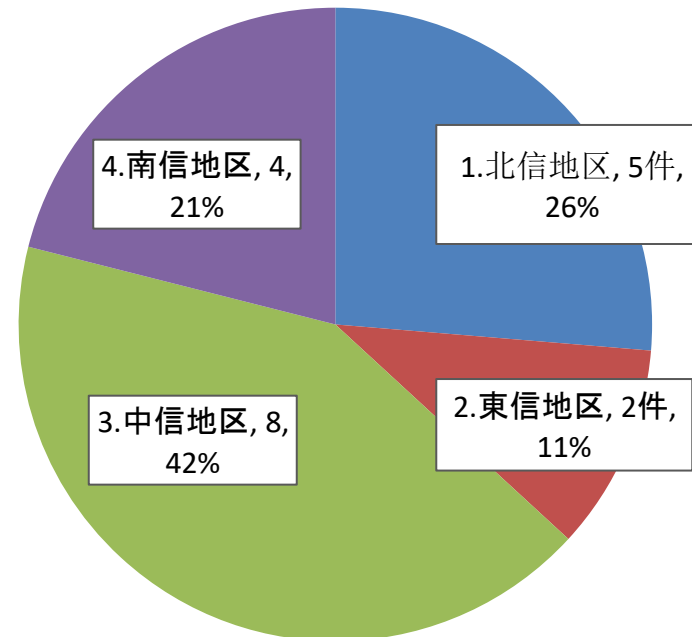
回答施設のエリア

- 1.北信地区
- 2.東信地区
- 3.中信地区
- 4.南信地区

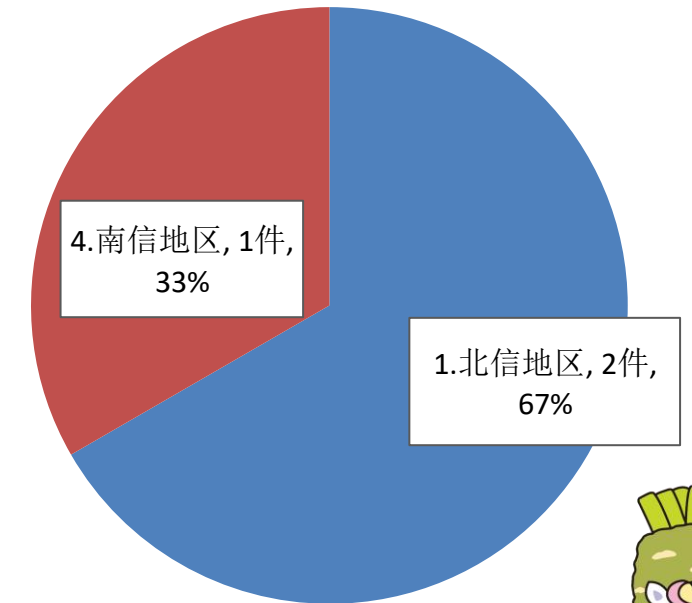
市町村：34件



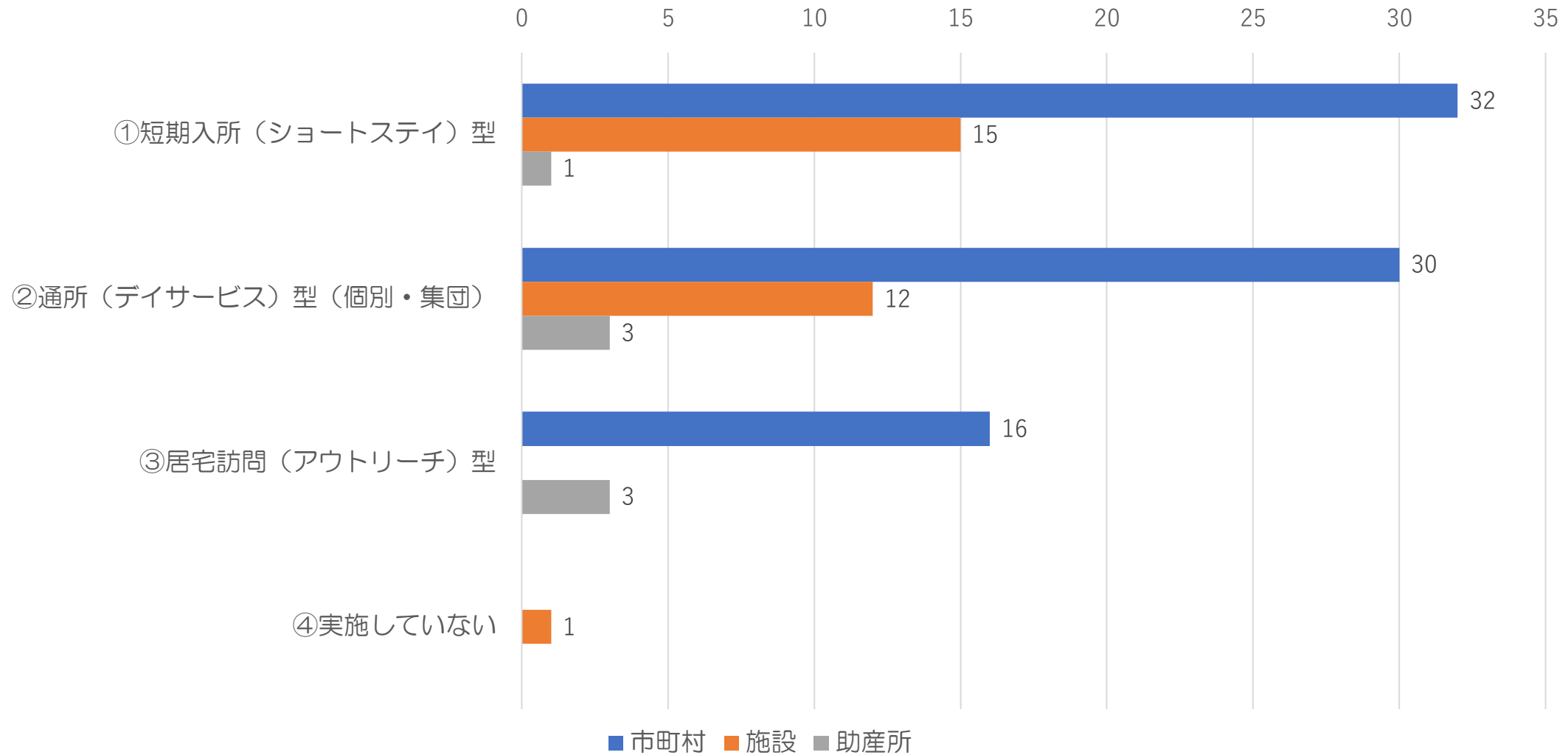
分娩を扱う医療機関：19件



開業助産院：3件



産後ケア事業として実施しているもの（複数回答）

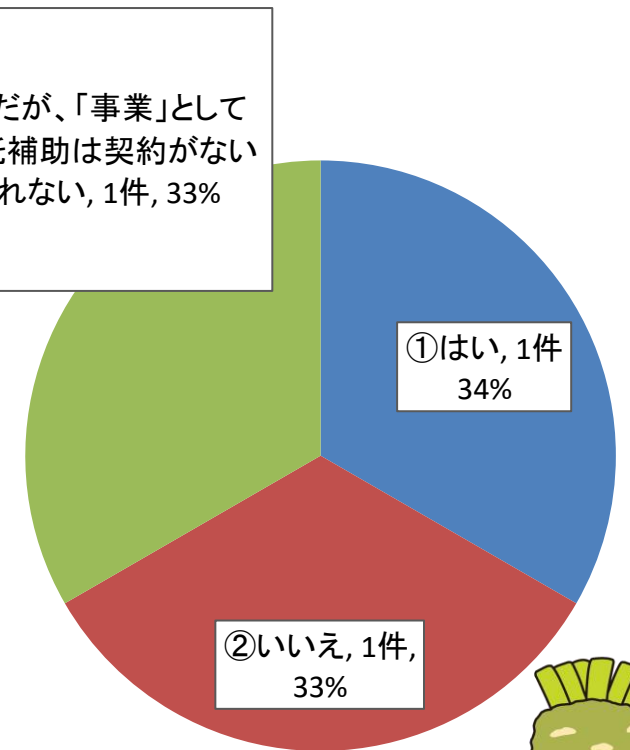
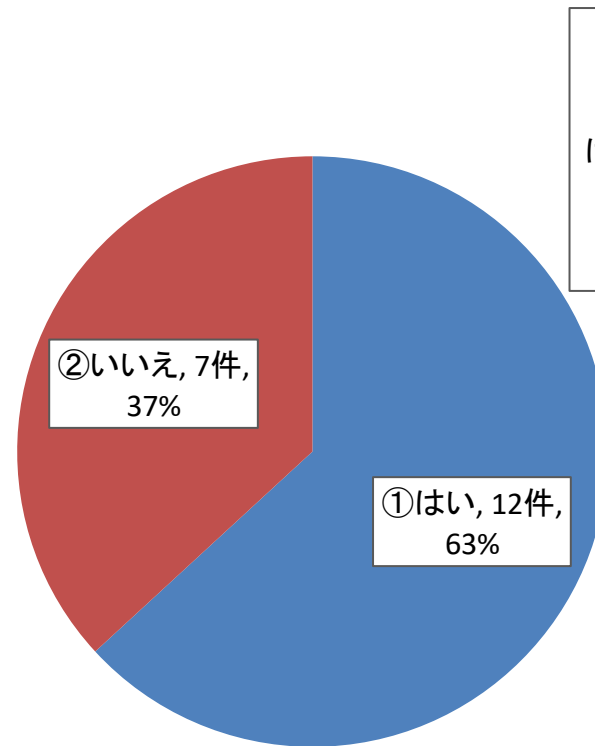
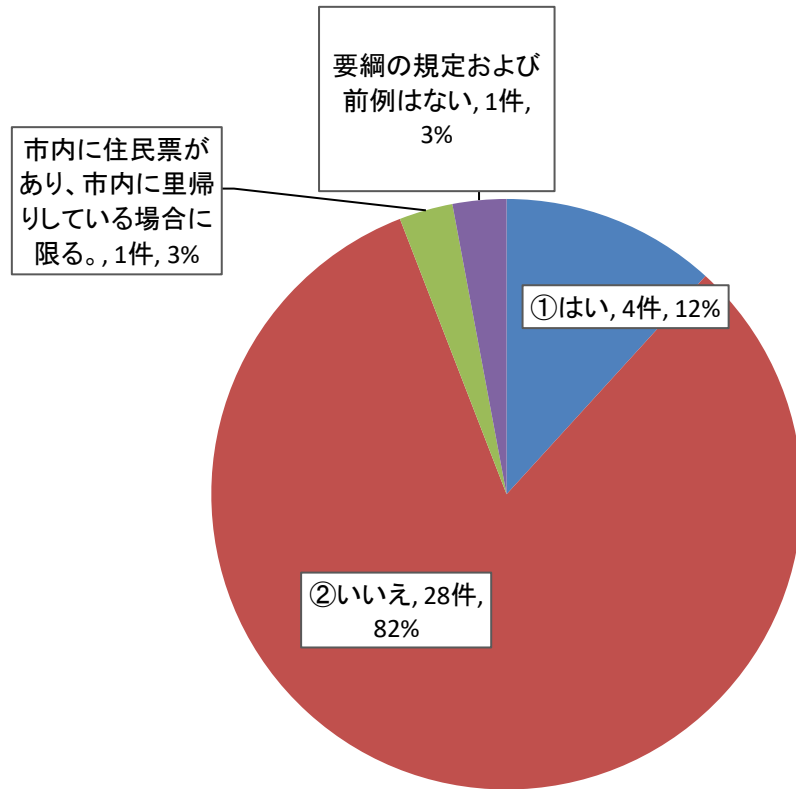


里帰り妊産婦は、産後ケア事業を利用できますか

市町村：34件

分娩を扱う医療機関：19件

開業助産院：3件

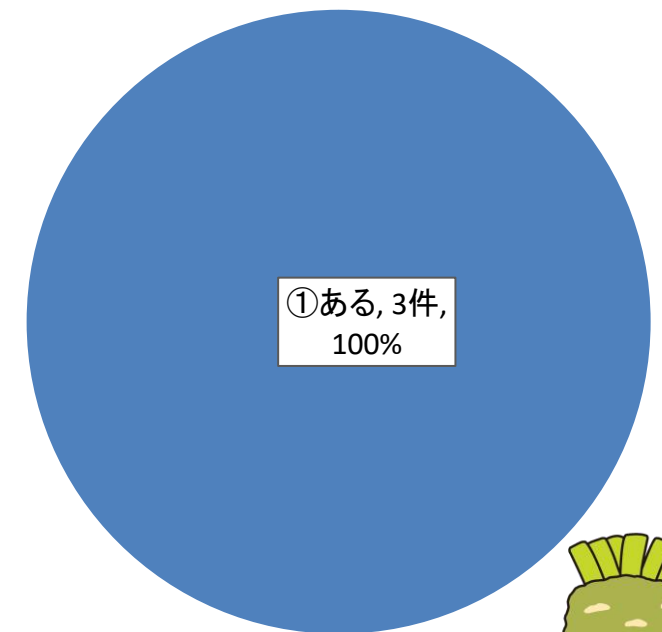
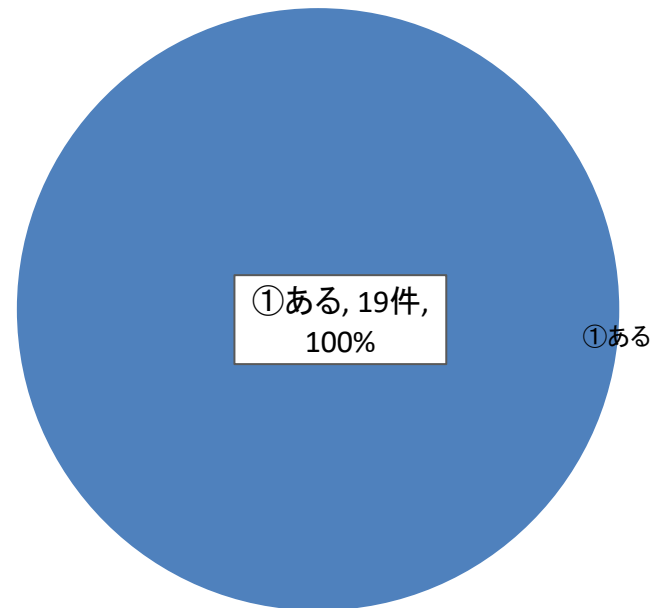
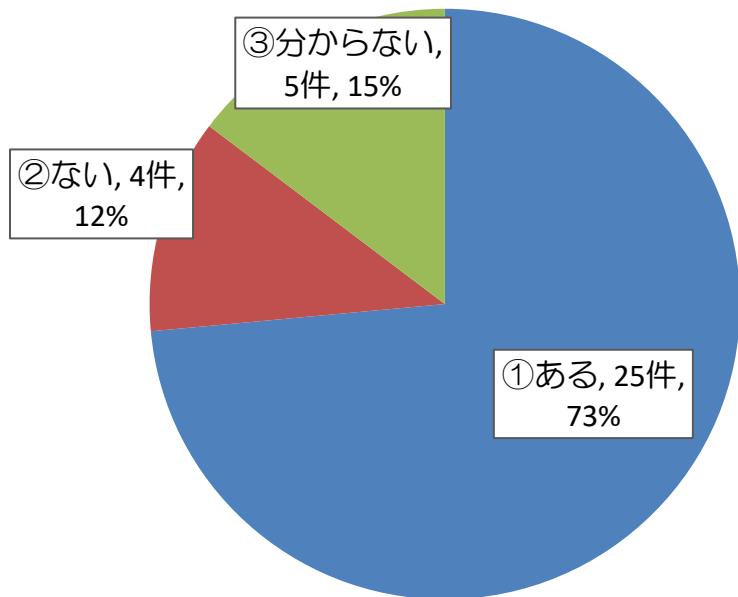


産後ケア事業の取り組みにあたり、課題はありますか？

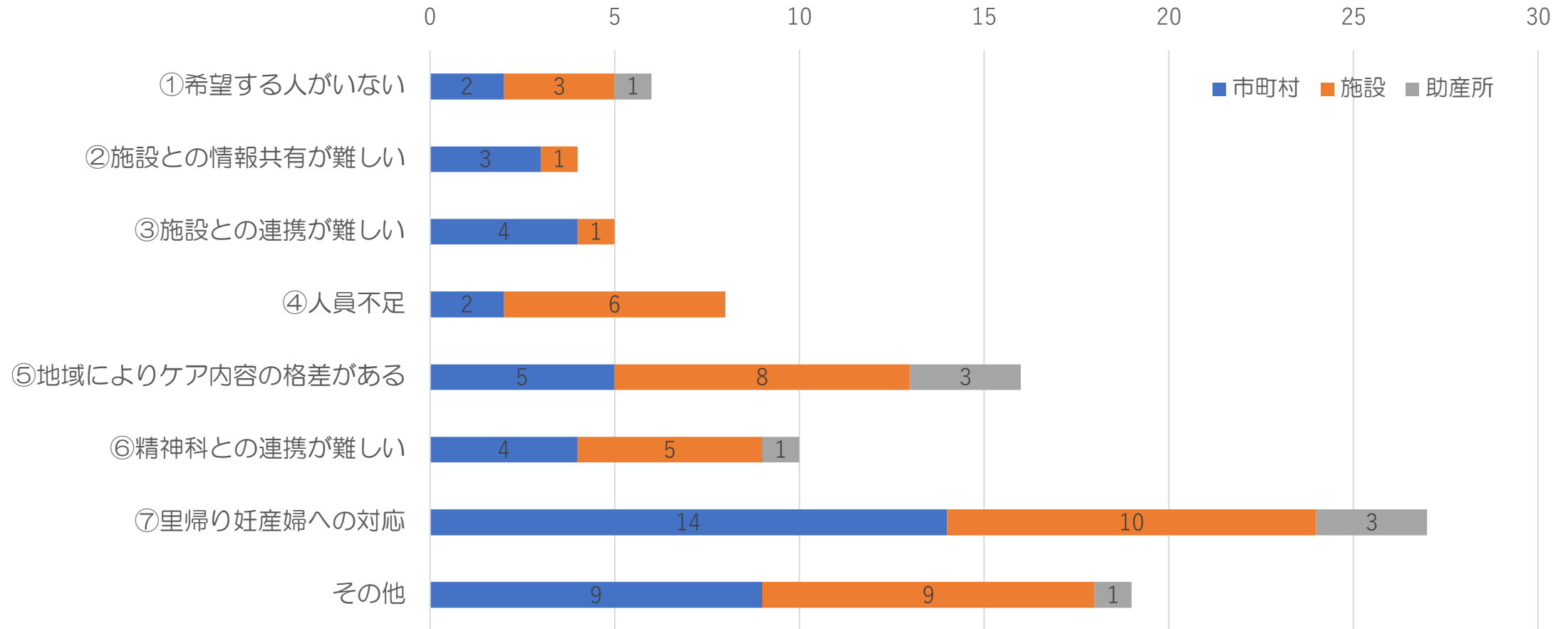
市町村：34件

分娩を扱う医療機関：19件

開業助産院：3件



産後ケア事業の取り組みにあたり、課題だと思えることはありますか？



その他：課題と思うこと（市町村）

- 受入先の事業所が少ない。委託費が高額。利用日数上限がある。
- 利用料の基準なく、地域差あり。要件の範囲も広く町の負担大きい
- 利用の際には事前に申請が必要になります。利用者目線に立てば、いともな切羽詰まる状況の時申請が請など簡便に対応できなければ皆んなこのなまが多々ありませう、無料で対応出来るなど、国の制度として運用できれば皆んなこのなと思えます。
- 県境のため、県外の医療機関で契約が難しい所もある
- 料金に対して躊躇し利用につながりにくい
- 事業の始まりは虐待予防や産後うつ等の支援だったと思うが、最近の予算があることなのに無茶を言っているように思う。
- 金額が高い



その他：課題と思うこと（施設）

- 病棟のベッド状況で受け入れが出来ないこともあるから
- 書類の手続き(オンラインも含め)が複雑でわかりづらい
- 利用しやすい費用
- 産婦人科医師が特定の医師しか関わってくれない
- 適正運用について
- 里帰りの方など補助金がないため料金が高い
- 分娩休止中のため妊産婦と繋がりにくい
- 産科以外の感染症小児科、内科、整形外科等の介助を要する患者など、混合病棟なので、受け入れ時、苦慮している。
- 混合病棟であり、ベット状況で受け入れが困難な場合がある。



その他：課題と思うこと（具体的な事例）

市町村

- ・アウトリーチ型のサービス不足

施設

- ・自費設定ができていない。

施設

- ・里帰りの人のデイケアを行いたいが、補助金がなたいめ料金が高く、自宅のある地域に依頼することしかできなかった

施設

- ・里帰り妊婦が産後ケアを利用することがほとんどないが、市長町によってサービス内容に違いがあるため、サービスの把握が難しく、サービス内容も含めてお母さまに説明するための情報収集に時間を要する。

施設

- ・利用希望がいたが、ベッド事情で約束ができなため、他を紹介した

施設

- ・産後ケア入院を希望されていたが、児がNICU入院となり母児分離になったら制度を使えないと言われた。

施設

- ・乳房緊満感が強く搾乳ケアなど必要であり本人も安く延長できるならと希望されていたが、使えないから退院の方向となり残念であった。

助産所

- ・里帰りで双子を出産、他県であった為産後ケア事業の適応にならなかった。母と祖母がかなり疲弊して自費で1回のみ産後ケアを利用された。その他、市町村の違い利用できないケースはたくさんあります。

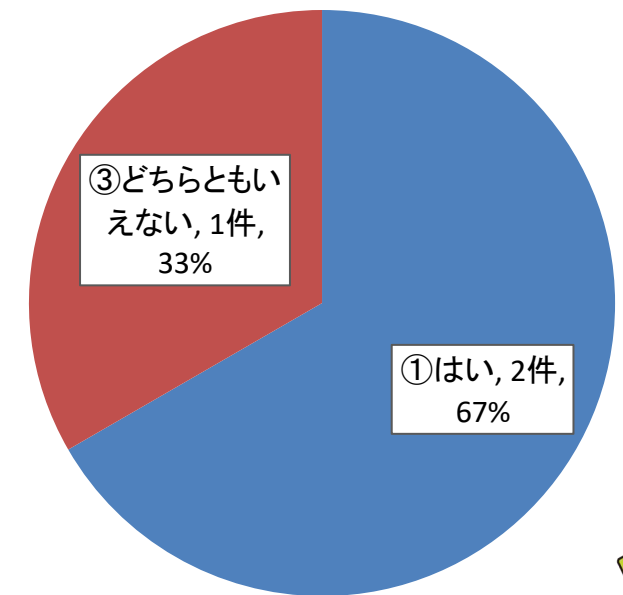
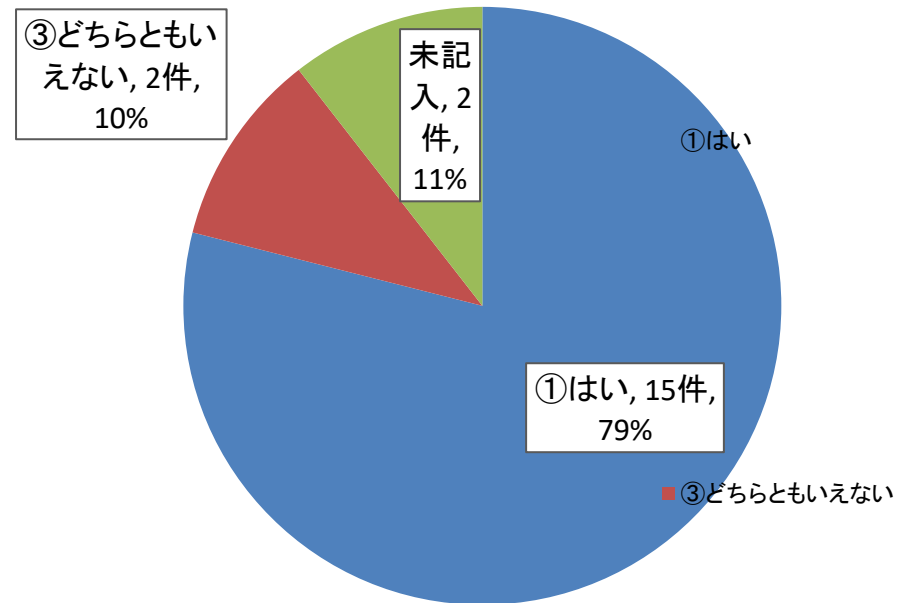
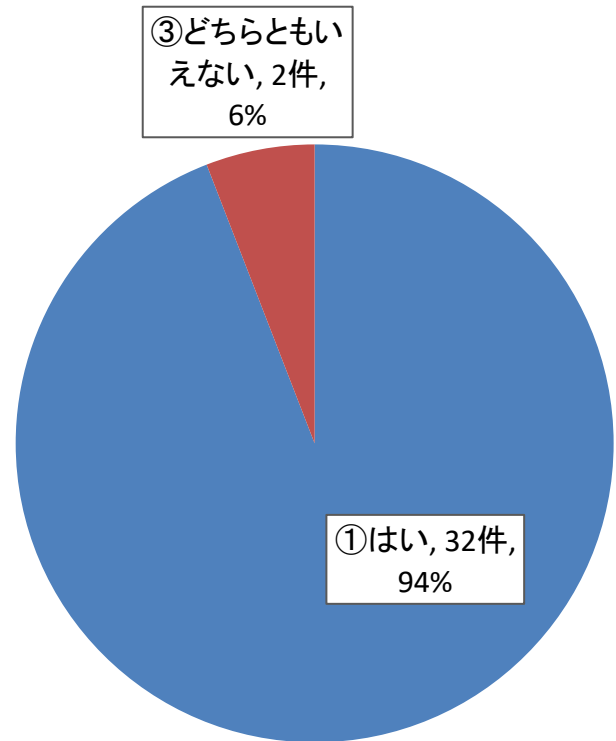


ハイリスク妊産婦について産科医療機関等との連携は取れているか？

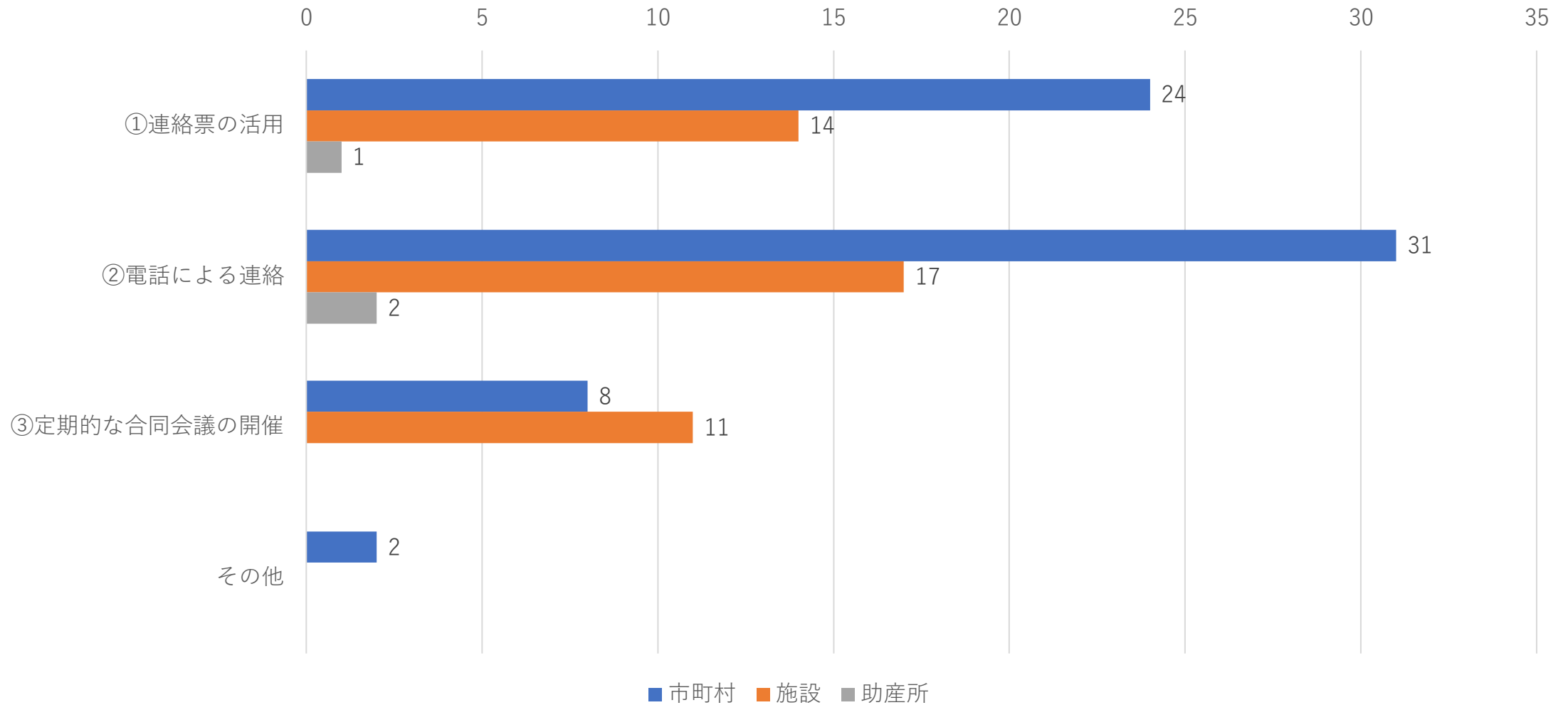
市町村：34件

分娩を扱う医療機関：19件

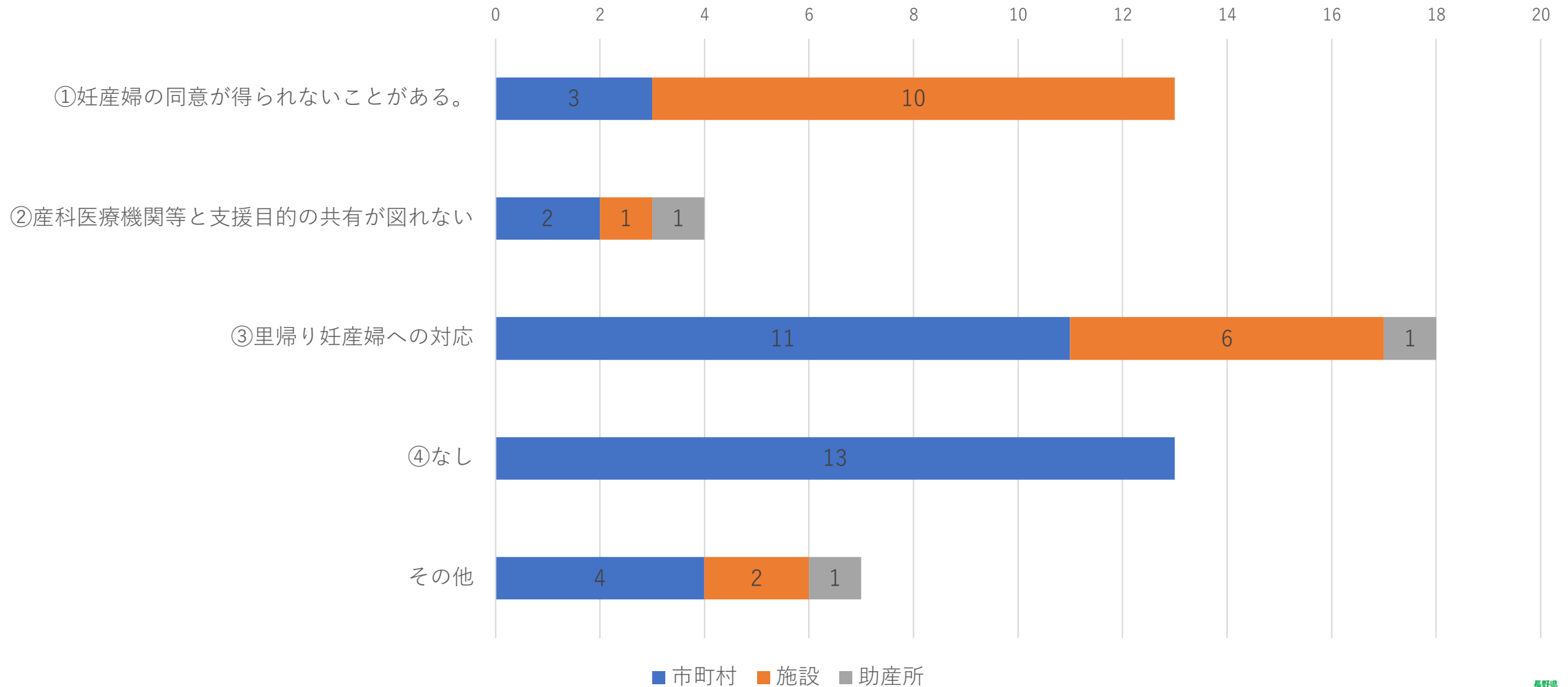
開業助産院：3件



連携のとり方

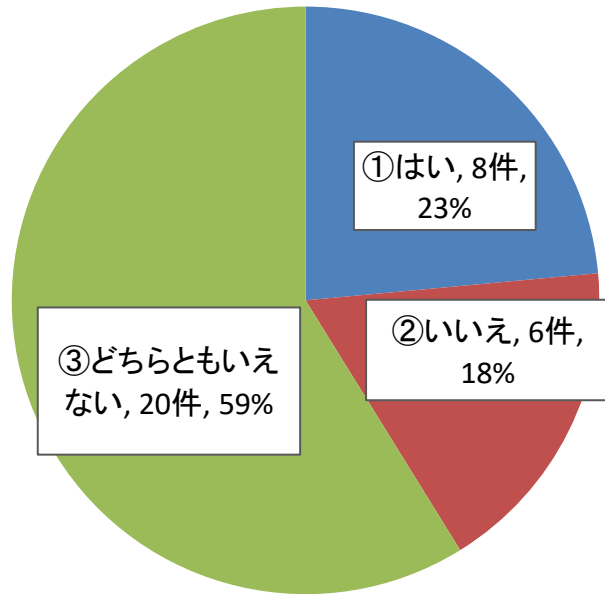


産科医療機関等との連携で、課題と思われることはありますか？

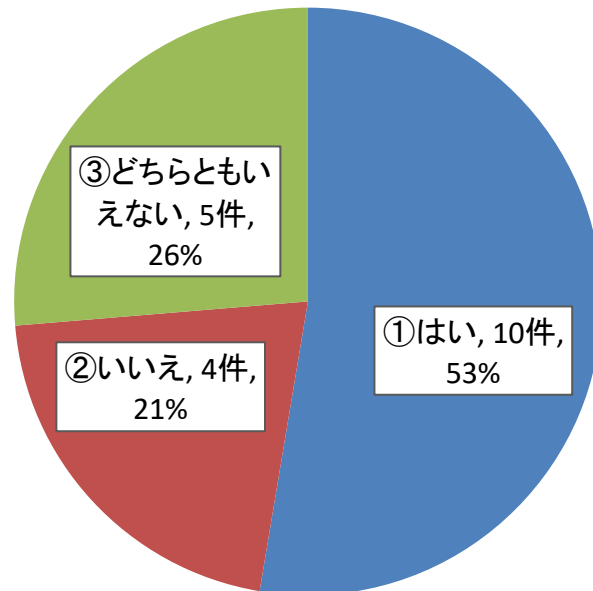


ハイリスク妊産婦について精神科医療機関との連携は取れていますか？

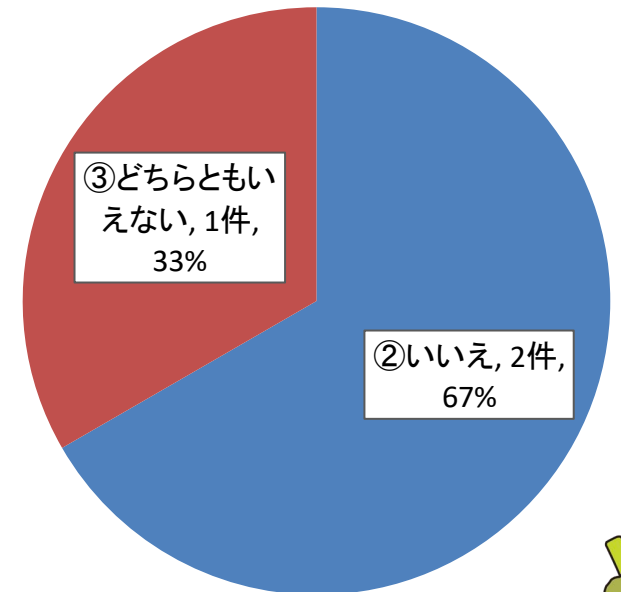
市町村：34件



分娩を扱う医療機関：19件



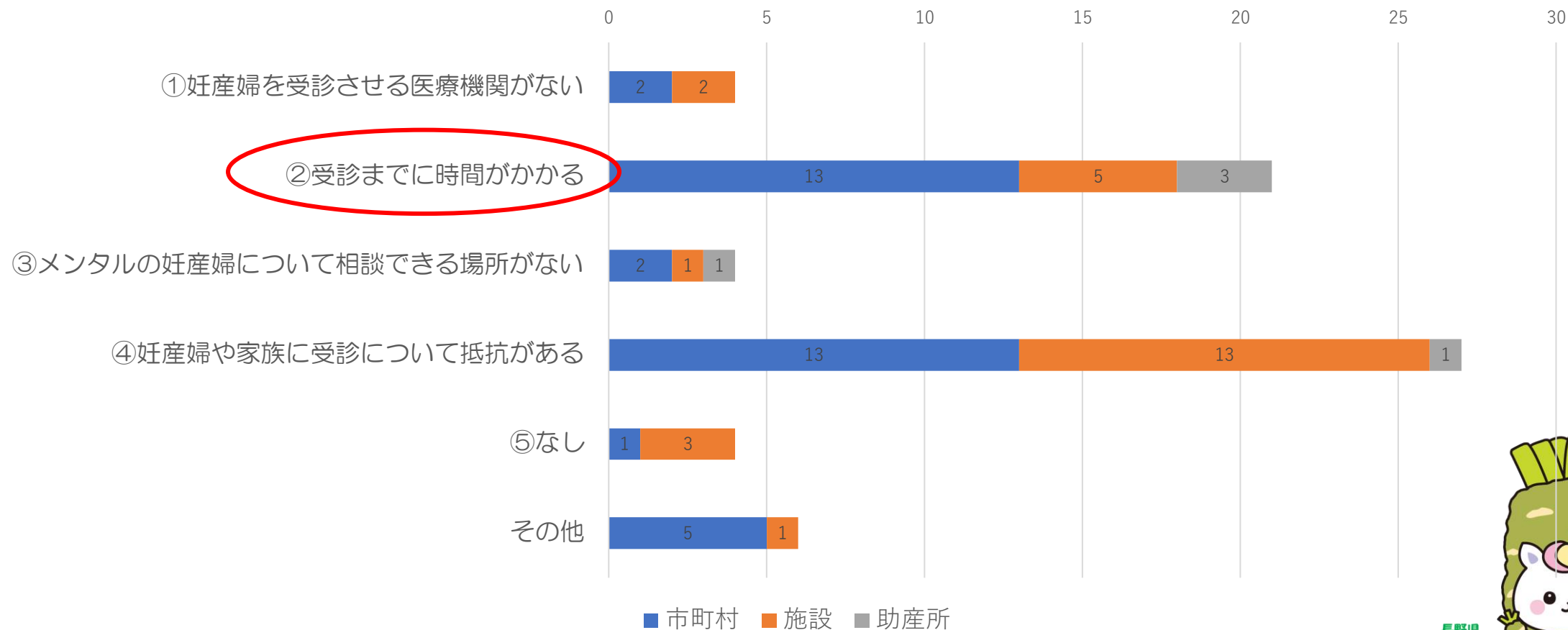
開業助産院：3件



【連携を取っている方】
保健師、子育て支援系の職員



精神科医療機関との連携で課題と思われること



その他：連携で課題と思われること

【市町村】

- 出産後も継続して精神科医療機関につながる事が難しい
- 連絡票等の文書での情報共有不足
- 病院が遠い
- 医療機関が遠い
- 緊急的に対応できる医療機関が少ない。また、医療機関にかかわる情報量が県と市町村で違うのでいざというときに対応できるのか、懸念している。

【施設】

- 精神科に依頼すると、断られることが多い



●施設から地域に望むこと

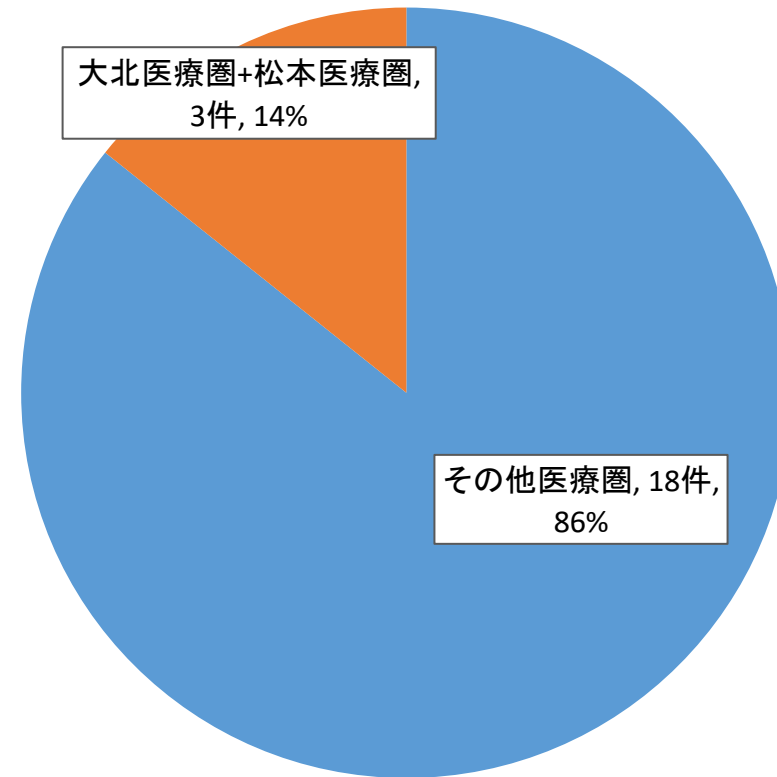
- ・ 県外でも里帰りの妊婦の共有が必要。
- ・ 補助金の統一化
- ・ 褥婦の精神科クリニックの依頼など、断わらないでみて貰いたい。
- ・ 地域に心理カウンセラーを常駐させて欲しい。精神科受診までに時間かかったり、抵抗がある方もいるので、まず地域ですぐ相談できる専門家がいると良いと思う。また、市町村によっては常駐していると思うが、病院からは見えにくく連携がとりづらい面がある。
- ・ 地域包括ケアシステムの推進と連携
- ・ 地域、市町村の利用差が大きい。
- ・ どの地区に住んでいてどの地区の産後ケアを利用しても自治体の補助金が見える体制を作ること

●助産所から地域に望むこと

- ・ 地域、市町村の利用差が大きい。
- ・ どの地区に住んでいてどの地区の産後ケアを利用しても、自治体の補助金が見える体制を作ること



精神科医療機関との連携での課題 「受診までに時間がかかる」回答の内訳



事前調査へのご協力をいただき
ありがとうございました。

